

令和2年度 学校評価（自己評価・学校関係者評価）報告書

令和3年5月21日

(学)洗心学園 加茂葵幼稚園

1. 学校評価の目的

本園は『心身ともに健やかな子どもに』を教育の目標とし、子どもをまん中に各家庭と協力し合って、一人一人の健やかな育ちを支えるための教育実践に力を入れている。

日頃から担任はじめ全職員が子どもたち一人一人への丁寧なかかわりと見とりに努め、日々の保育の振り返りはむろんのこと、全職員による定期的な教育内容や環境の見直し、ならびに毎年度末に教育課程（カリキュラム）の見直しを行っている。

教育の営みは PDCA「教育目標の設定（P）→保育の実践（D）→振り返り（C）→改善（A）、次の目標の設定（P）」というサイクルで示すことができ、このPDCAを繰り返すことで、教育の質が向上していく。（自己評価）

この自己評価を保護者の代表や地域の方々（学園評議員）など、園にかかわる外部の方にも開示して説明・評価をいただくことによって、自園の教育の質向上とよりよい園運営に生かしていきたい。

幼稚園は学校教育の始まりであること、また公教育であることを忘れず、学校評価への取り組みを通して偏りのない教育の実現を目指したい。

2. 学校評価の内容

- ①教育目標の達成について（教育活動への評価等）・・・2年次
- ②子育て支援活動への取り組みについて
- ③防災への取り組み（安全に係る配慮）について

①令和2年度教育目標の達成について

「丈夫な子ども 心豊かな子ども ～心身ともに健やかな子どもに～」

- 遊びによる教育「いっぱい遊んで大きくなろう！」
- 咲かせたい個性の花「自分らしくいられるように・・・」
- 明るく正しく仲良く「仲良しの輪を広げよう！」

令和2年度（学年別）重点目標と担任による評価

たんぽぽ組3人（未満児：2～3歳）「幼稚園になれ安定した気持ちで過ごす」

内 容	振 り 返 り
生活習慣の自立 （できる事は自分です）	基本的な生活習慣の自立については年齢や月齢に応じて指導・援助してきた。朝の身支度・昼食の支度・片付けはほぼ自立し、身についたと思う。帰りの支度は午睡の状況（機嫌など）を見て保育者が行うこともあった。2歳児はトイレトレーニングも完了した。
安定した気持ちで過ごし好きな遊びを楽しむ	比較的早く園生活に慣れ、安定して過ごしていたように思う。ままごとや積み木・ミニカーや運動遊びとそれぞれが好きな遊びを楽しんでいた。いざごぎになることも少なく、その場に適した言葉を使いおもちゃの貸し借りなどもできていた。 一時預かりの利用者も多く、新しい子が来た時にはやや落ち着かない様子も見られたが、その状況に慣れてくるとお世話する姿も見られるようになった。 多い日は0～2歳児の混合6，7名になることもあり、運動場で遊んでいる時に怪我につながってしまうことがあった。早めに補助の先生に入ってもらうなど、もう少し安全面に留意すべきだったと反省した。その後、園庭や運動場に出る時には状況に応じて補助をお願いするようになった。

もも組7人（年少組）「幼稚園って楽しい！自分のことは自分でする」

内 容	振 り 返 り
生活習慣の自立の援助	着替えや手洗い、うがいは自立している子が多く、「再確認」の段階から進めることが出来た。排泄に関しては家庭と連絡を取りながら、無理なく進められた。身支度の早い子と遅い子の時間差が大きいため、前者をいつも待たせてしまったり、保育者が手伝うことが多かった。一人一人に合わせた援助をしたいが、全体での活動への取り組みも大切であり、その調整に難しさを感じた。
好きな遊びを十分に楽しむ	「幼稚園は楽しいところ」という事を知ってもらうため、心地良い環境づくりや親しみのある保育者であるように心掛けた。進級児が7人中5人と多く、友だちとの関係も

	<p>良好で声を掛け合い、よく遊んでいた。個での遊び方もうまいが、保育者が環境を設定したり、一緒に遊ぶことでよりイメージを広げ、集中して遊べたように思う。また、集団遊びやごっこ遊びも積極的に取り入れ、ルールを守ってみんなで遊ぶ楽しさも共有できた。年中・長児との関わりも多く、一緒に過ごすことで憧れの気持ちを持つことが出来たので、職員同士の連携や子ども同士で遊ぶ事の大切さを改めて感じた。それに比べ、未満児との関わりは少なかったもので、もっと機会を作ればよかった。</p> <p>全体の反省点としては、自身が新しい環境で保育をすることや久々の担任ということで、保育自体に戸惑うことが多かった。そして保育の準備が不十分であったり、計画通りに行かない時など、子どもが発するネガティブな言葉（「もうやりたくない」「またこれするのー？」「えーやだー！」）に流されて、活動をやや急いでしまうことがあった。子どもの声に耳を傾けつつ、「絶対楽しいからやってみよう！」と言える自信を持つこと、子どもの心を惹きつける言葉や方法を身に付け、それぞれの活動を丁寧に進めていけるようになりたい。今後の課題にしたいと思う。</p>
--	---

うめ組4人（年中組）「友だちといっぱい遊ぶ・けじめのある生活をする」

内 容	振 り 返 り
友だちづくりと自立・自律の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・進級し、混合クラスになったが戸惑う様子もなく、年長児ともスムーズな関りが出来ていた。（遊び） ・一人一人の個性が強く、マイペースな子が多いためか、集団行動の際に遅れてしまい年長児を待たせることが多かった。 ・二学年の能力の差が大きく、どちらに基準をおくべきか悩むことが多かった。子どもの力以上のことを求めすぎていたのではないかと反省している。 ・一年間、混合クラスで過ごすことで、年長組からの刺激を受けた面もたくさんあり、良かったと思う。

まつ組 5人 (年長組) 「どんなことにもみんなで力を合わせて頑張る」

内 容	振 り 返 り
<p>・ 自立・自律の援助と協働性の芽生えを育む ※</p> <p>※同じ目的に向かって協力し合う態度</p>	<p>・ 進級当初、やや大人しい雰囲気のクラスだったため、少し心配していたが、徐々に自分たちがリーダーという自覚も芽生えしっかりとリードする姿が見られた。</p> <p>・ 個々の得意なこと（特に運動や絵画）を認め合い、刺激し合いながら力を発揮することができていた。担任としても、子どもたちの力が伸ばせるように工夫し、しっかりと援助できたと思う。</p> <p>・ コロナ禍ということできざまな行事やイベントが中止・縮小になってしまったがその中で子どもたちと工夫し、今だからこそ出来る事に楽しく取り組めたので良かったと思う。(子ども主体に活動できた。)</p>

②子育て支援活動への取り組みについて

～つぼみ組 (未就園児親子教室)～

○これまでの一人体制から二人体制にしたことで下記のような取り組みも行うことが出来た。

- ・ 回数を増やした (隔週→毎週)
- ・ 園開放日の回数を増やした (毎週火・金)
- ・ リトミックやパーティーの開催
- ・ 保育室の拡張 (1 部屋→2 部屋)
- ・ 新しい遊具の購入 (屋内用一人乗り車)
- ・ 絵本の貸し出し→利用者少数

・ コロナの影響でスタートは遅れたが、つぼみ組は毎回数組の親子が遊びに来てくれた。園開放日も時々利用者がいた。しかし、2 学期頃からそれまで頻繁に来ていた親子が来なくなったり、ハロウィンパーティーなどのイベント以外は人が集まらないような実状があった。

保護者に話を聞くと、働くため、未満児保育をしていることを知らなかったため他園に入園を決めた、などの理由からであった。幼稚園にも働いているママはたくさんいること、幼稚園にも未満児クラスがあることを周知できていないことがわかり、PRの必要性を強く感じた。

そこで、ポスターは学期ごとに遊びの広場 (加茂・須田) とメリアに貼る、昨年までのつぼみ組利用者には初回のみ手紙を送付、ホームページの更新などでつぼみ組や園について等のお知らせを行った。ホームページを見て興味を感じ来園するだろうというのは甘い考えであった。まずはポスター等で“葵幼稚園”を知ってもらう段階を作る必要性を感じ、ポスター掲示場所を増設することにした。また、ポスターだけでなく案内のチラシも設置するようにした。

・ 入園説明会では詳しく園の説明をしてきたが、それ以外にもつぼみ組の時に当園をプッシュするようなことを話したり、手紙を配布したりするなどしていればよかったと反省する。

- ・つぼみ組の集客につながると思い、開催日を増やしたり園開放日を増やしたりしたが、思ったような成果はなく、反対につぼみ組の準備に追われてしまうことにもなった。また、つぼみ組の時間は一時預かりの補助にも入れず、一時預かりが大勢いる時にはしわ寄せも感じた。開催日を少し減らし、ホームページの見直しやポスター、案内のチラシ作成の時間にあてたいと反省した。

～一時預かり（1歳半前後のお子さんの預かり保育）～

- ・令和二年度は一時預かりのクラス担任に補助教諭がついたことで、以前より利用者を断ることなく運営できたと思う。急な申し込みや同日に数人の利用にも対応できた。
- ・午後からの利用者などは、お昼寝時に重なるため対応に困ることもあったが、他の教諭とも協力し合い、受け入れることができた。午後からだけ利用の希望者もいるため、柔軟に対応できるようになってよかった。
- ・毎朝担任と一日の流れを確認し合い、補助が必要な時間を予め聞くようにした。トイレ、衣服や靴の着脱など生活習慣を身につけさせる時期である子どもたちのためにこれらの時間には特に手伝いに行くようにした。
- ・未満児クラスは戸外遊びの準備や、身体計測の準備など細かなことに大変時間がかかるため、補助教諭の手助けが不可欠であると感じた。しかし、つぼみ組と重なると補助に入れないため、全教諭でもう少し確認し合い、手助けしあえたらよかったと反省した。
- ・おもらしやけがなど急な補助を必要とする場面での補助教諭への連絡の仕方に工夫が必要である。補助教諭はこまめに一時預かり保育室を見に行く、電話を置く、クラスの位置などよく考えるとよいと思う。
- ・一時預かり担当以外の教諭でも希望者からの申し出時にスムーズに対応できるよう、利用者の様子を細やかに話したり、配布物や持ち物や料金、受け入れ可能日など共通理解を図れるようにしていきたいと思う。
- ・一時預かりの金額が他の園に比べてリーズナブルなことなど、もっと周知できるようにするべきであったと反省している。
- ・里帰り出産の方やつぼみ組利用者の方など、多くの方に一時預かり保育を利用してもらえた一年であった。しかし、入園につながらなかったことは大変に残念であった。もう少し葵幼稚園の良さをわかってもらえるようアピールするべきであったと反省した。今後の課題である。

③安全への取り組みについて

- ・地震・火災を想定した避難訓練の実施（年3回）と、不審者対応も含め防災・防犯向け教材を用いて指導を行った。担当者作成による年間計画に沿って指導や訓練を実施したことで、日々の保育においても常に安全への意識をもちながら行動したり、細かい点にも気づくことができるなど、余裕を持った指導が出来たように思う。
- ・保護者への引き渡し訓練の実施（年1回）

※次年度は消防署員による実地訓練の他、保健衛生面についての年間指導計画の作成とそれに沿った実施を予定している。

4. 園としての評価 A

A：おおむねよい（5段階評価での4～5）

B：ふつう（可もなく不可もなし）（5段階評価での3）

C：全般に努力を要する（5段階評価での2以下）

5. まとめと次年度にむけて

- ・各クラス担任並びに各担当者による自己評価をもとに全職員で評価を行い、Aとした。
- ・コロナ禍により園行事の変更や中止など、子どもたちにとっても教職員にとっても（おそらく保護者にとっても）例年とは異なった「活力を削がれたような、また、なんとなく物足りなさを感じる」1年であったように思う。しかし、このような中にあっても園児たちはいつもどおりに笑顔で元気いっぱい登園し、好きな遊びに没頭したり、保育者や友だちと様々な活動に取り組んでいた。子どもたちの元気と、何事にも一生懸命に取り組むその姿に、教職員が励まされた1年でもあった。
- ・次年度も、担任や担当者が反省点・今後の課題として挙げていることに真摯に取り組み、園の教育目標達成に努力したい。

学校関係者評価委員の方からのご意見

5名の評価委員の方より回答をいただきました。

◎ 回答 A・・・5名

◎ ご意見・ご助言

静坐や仏様に手を合わすことなどが子どもたちの中に残ることが成長してからの耐性や集中力につながるのでは、と思います。科学的根拠は見い出せなくとも、長い間おじいちゃん、お父さん・・・と引き継いできた良きことを今も続けていること、この良さを若い方にも上手く伝えたいですね。SNSをうまく活用して情報を流すことも考えてみてはいかがでしょうか？

令和2年度は、コロナ関連で仕事が増え、子どもたちと活動しながらの対策は本当に大変だったと思います。ありがとうございました。

今後の課題や小規模保育への取り組みで、葵幼稚園の魅力がたくさんの人に伝わることを願います。

葵幼稚園の先生方は個々のスキルが非常に高いと感じています。いつも私たち保護者、そして子どもたちのことを考えて色々取り組んでいただいている大変感謝しています。

大規模園では出来ない細やかな配慮がある一方で、やはりクラスの人数が少なすぎる！という面が見え隠れする事もありました。

まだまだ始まったばかりの混合クラスですが、令和2年度は年長児が4～6月生まれであった事により、年中児には大変だった事もあるのではないのでしょうか？個人差はあれど、まだまだ生まれつきの影響が大きい幼児期において、成長過程の子どもに対しての配慮や働きかけが今後、より大切な事だと思いました。

晴れている日に園に伺うと園庭で、元気いっぱいかわいい笑顔の子どもたちが、「先生～♪先生～♪」と楽しそうに遊んでいる姿や声が必ず聞こえてきます！

コロナ禍の中、行事は縮小されていると思いますが、そんなことを感じさせない園児たちの笑顔！子どもたちの大事な時期を支えてくださる先生方の日々の努力があるからだと確信します。葵幼稚園の100周年、行事がたくさん出来ますように。

先生方がPDCAを実施し、園児一人一人に目配りがしっかり出来ていると感じています。子育てを経験したベテランの先生方には安心感があります。自然豊かな環境に加え、少人数でのメリットは、卒園児が小学校・中学校と進むにつれ、行動面・学習面等で、他園卒園のお子さんと比較し優れている（私自身が感じている）点だと思います。

実際、卒園児は中学生になっても、思いやりがあり、自分自身を大切に出来る子が多いです。

少子化の中、園児減少は仕方ないと思います。チラシ配布やポスターでの募集では限界があるので、卒園児やその保護者の「声」を効率よく発信する場面があると良いです（SNSなどなど）。

先生方の負担を減らすこと、行事等での保護者の負担を減らすことも必須と考えます。